IRAF/PyRAF インストール講習会

1

磯貝 瑞希 国立天文台 天文データセンター 2018.06.05

-- ウェブ掲載版 --

講習の目的と内容:

本日の講習会の目的:

IRAF/PyRAFをシステム(Linux, CentOS 7) にインストールできるようになること。

講習内容:

- 0. 仮想マシンの起動
- 1. IRAF (v2.16.1) のインストール
 - IRAF, STSDAS/TABLES, x11iraf, SAOimage ds9
- 2. PyRAFのビルド・インストール
 - (Python のビルドに必要な)パッケージのインストール
 - Python (v3.5.4) + (PyRAFに必要な)モジュールのインストール
 - PyRAF (v2.1.14) のインストール
- 3. AstroCondaを利用したインストール

参考: CentOS 7の情報

OSの情報:

- CentOS 7.5
- ソフトウェアの選択: Gnome Desktop + 開発ツール
- OSインストール後にインストールしたパッケージ:
 - emacs
- アカウント名: 本テキストでは一般ユーザのアカウント名を「user」とする - OSインストール後の設定変更:
 - スクリーンセーバーの解除
 - 日本語入力設定(「半角/全角」キーで切替可能)
 - フォルダ名 (ダウンロード、ドキュメントなど)の英語化

1-A. IRAF 2.16.1 のインストール

インストール用ファイルの入手:

ウェブブラウザ(アプリケーション → お気に入り → Firefox Web ブラウザー)

を起動し、本家サイト: http://iraf.noao.edu

より、「Linux 64bit版」をダウンロード:

ftp://iraf.noao.edu/iraf/v216/PCIX/iraf.lnux.x86_64.tar.gz

インストール

ターミナルを開き(右クリックしてメニューの一番下を選択)、rootになる

\$ su -

インストール先ディレクトリを作成する(下記以外でも可)

mkdir -p /usr/local/iraf/v2161/iraf

行頭の「\$」は一般ユーザ でのコマンド実行を、「#」 はrootでの実行を表す

作成したディレクトリに移動する # cd /usr/local/iraf/v2161/iraf ダウンロードしたファイルを展開する

tar xvfz /home/user/Downloads/iraf.lnux.x86_64.tar.gz

環境変数 \$iraf を設定する

export iraf=\$(pwd)

echo \$iraf

→ /usr/local/iraf/v2161/irafと表示されればOK.

インストールの実施

./install -s

→ 実行後、以下については、青文字を入力。それ以外は「enter」でOK. New iraf root directory (/usr/local/iraf/v2161/iraf): [enter] Default root image storage directory (/usr/local/iraf/imdirs): /usr/local/iraf/v2161/imdirs Default root cache directory (/usr/local/iraf/cache): /usr/local/iraf/v2161/cache Local unix commands directory (/usr/local/bin): [enter]

Hostname	= vm01.mydomain	OS version	= Linux 3.10.0-862.3.2.el7.x86_64
Architecture	= linux64	HSI arch	= linux64
Old iraf root	= /iraf/iraf	New iraf root	:=/usr/local/iraf/v2161/iraf
Old imdir	= /iraf/imdir	New imdir	= /usr/local/iraf/v2161/imdirs
Old cache	= /iraf/cache	New cache	= /usr/local/iraf/v2161/cache

Local bin dir = /usr/local/bin

Proceed (yes): [enter] → インストールが最後まで進む。

出力情報の続きその1

	======================================			===			
		,		,			
	Checking for existing commands directory	ι	ÛK	1			
	Editing Paths						
	Edition the year leain(other maths	,			<i>z</i> =	1000	<i>, ,</i>
1	Editing the user .login/.csnrc paths	• /	inst	all:	仃	1000:	(()
ľ	: 0=0 : 非変数に割り当てを行のつとしてより (エラーのめるトークフは =0) *** (annot						
	Editing iraf/imdir/cache paths into system files	[0K	1			
	y y y y y y y y y y						
	Checking File Permissions						
	Checking iraf file permissions	[0K]	_		
	Creating root imdir at /usr/local/iraf/v2161/imdirs				[OK]]
	Creating root cache at /usr/local/iraf/v2161/cache	ŗ	014	,	ι	OK J	
	Reset /tmp sticky bit setting	ι	UK	1			
	Creating File Links						
				_			
	Checking for /iraf symlink	[FAIL]			
	Checking /usr/include directory	ļ	0K	1			
	Creating <1rat.n> symlink	ľ	OK	1			
	Marking system update time blibfutime	ľ	OK	1			
	Harking system update time httpsutime	ι	UK	1			
	Installing VOClient Code						
	Creating lugalizatel surlink	r	04	1			
	Creating VOCLIENTO' SYMLINK	l	OK	J			
	creating vocitent.jar symitink	ι	UK	1			

出力情報の続きその2

Creating Graphics Device Files

Checking /	'usr/local/lib directory	[0K]
Greating /	/usr/local/lib/imtoolrc link	[0K]
Creating X	(11IRAF links	[0K]

Congratulations! IRAF has been successfully installed on this system.

To begin using the system simply log in as any user and from the directory you wish to use as your iraf login directory type:

> % mkiraf # create a login.cl file % cl # start IRAF

The 'iraf' user is already configured with a login.cl file so a simple 'cl' command is sufficient to start the system. Additional user information can be found at the IRAF.NET web site:

http://iraf.net

Please contact http://iraf.net with any questions or problems.

→ 以上が表示されれば、install が完了。

リンクの修正:

(補足:リンクの修正をしなくても一見問題なく動くようだが、全てのタスクで 正常に動作する保証はないため、事前に修正しておくことを推奨する) bin, unix/bin, unix/as, unix/hlib/iraf.h のリンクを修正する # rm bin # In -s bin.linux64 bin # cd unix # rm bin # In -s bin.linux64 bin # rm as # In -s as.linux64 as # cd hlib # rm iraf.h # In -s iraf64.h iraf.h

→ 以上で IRAF 本体インストール後の修正作業が完了。

動作確認

新しくターミナルを開き、mkirafを実行後、IRAFを起動する

\$ mkdir iraf

- \$ cd iraf
- \$ mkiraf -i -t=xterm
- \$ cl

vocl> epar imstat

→ IRAFが正常に起動し、imstatのパラメータ編集モードになればOK.

1-B. 外部パッケージのインストール

外部パッケージ STSDAS/TABLES をインストールする。 (補足: STSDAS/TABLES以外の外部パッケージのインストールも同様) externディレクトリに移動

cd /usr/local/iraf/v2161/iraf/extern

configure, make を実行

./configure

make stsdas tables

リンクを修正

make時に内部で「wget」コマンドを実行している。 wget が ない場合には「# yum -y install wget」 でインストールする

cd stsdas ; rm iraf.h ; ln -s /usr/local/iraf/v2161/iraf/unix/hlib/iraf.h .

rm bin ; ln -s bin.linux bin

cd ../tables ; rm bin ; ln -s bin.linux bin

「;」複数行のコマンドを1行に

まとめて書くための区切り文字

補足: binのリンクを修正しない場合、IRAF では問題ないが PyRAF ではエラーとなる。

1-C. x11iraf のインストール

IRAF v2.16.1 のインストールファイルー式にx11irafも同梱されている。ユーザ インストールでは、同梱されているx11iraf関連ファイルのリンクが自動生成され、 利用できるようになるが、システムへのインストールでは自動生成されないため、 手動でリンクを作成する。

(補足: ./install実行時の出力 Creating X11IRAF link... [OK] でも実際は何もしていない)

変数の定義

dir=/usr/local/iraf/v2161/iraf/vendor/x11iraf

変数定義の確認

cd \$dir ; pwd

リンク作成

In -s \$dir/bin.linux/* /usr/local/bin/

In -s \$dir/lib.linux/* /usr/local/lib/

In -s \$dir/include/* /usr/local/include/

In -s \$dir/app-defaults/* /usr/share/X11/app-defaults/

In -s \$dir/man/* /usr/local/share/man/man1/

動作確認

新しくターミナルを開き、xgtermでIRAFを起動できるか確認する。 login.clを初期化し、ターミナルとしてxgtermを設定する

\$ cd ~/iraf

\$ mkiraf -i -t=xgterm

xgterm上で IRAF を起動する

\$ xgterm -sb -e cl &

IRAF上で以下を実行し、グラフが表示できるか確認する

vocl> implot dev\$pix

→ グラフが表示されればOK.

1-D. ds9 のインストール

FITS画像ビューア SAOimage ds9 をインストールする。

バイナリファイルの入手:

本家サイト: http://ds9.si.edu/site/Home.html

のダウンロードページより、CentOS7版のver.7.5

http://ds9.si.edu/archive/centos7/ds9.centos7.7.5.tar.gz

を入手する。(Download – 左側メニューの Archive – centos7)

※ 最新版(7.6)はIRAFからの画像表示でエラー(Cannot open device)となるため。

\$ su -

cd /usr/local/bin

tar xvfz /home/user/Downloads/ds9.centos7.7.5.tar.gz

動作確認:

起動しているIRAFプロンプト上で以下を実行する

vocl> ! ds9 &

vocl> display dev\$pix 1

→ 画像が表示できればOK.

以上で IRAF と関連ソフトのインストールは全て完了。

2. PyRAF のインストール

PyRAFのインストールは、以下の通り、インストール前に必要な環境・ソフトの インストールを先行実施する。

2-A: Pythonのビルドに必要なパッケージのインストール

2-B: Python 3.5.4 のビルド・インストール

2-C: モジュールのインストール

2-D: PyRAF 2.1.14 のビルド・インストール

2-A. Pythonのビルドに必要なパッケージの インストール

tcl, tk, tix, libzip と開発用パッケージをインストールする (最低限必須なのは tcl, tk, readline とその開発用パッケージ)

\$ su -

yum -y install tcl tk tix tcl-devel tk-devel tix-devel

→16パッケージがインストールされる。

yum -y install zlib-devel readline-devel bzip2-devel openssl-devel sqlite-devel

→12パッケージがインストールされる。

yum -y install xz-devel libzip libzip-devel

→ 3パッケージがインストールされる。

2-B. Python 3.5.4 のビルド・インストール

ソースファイルの入手:

本家サイト: https://www.python.org/ より、Downloads -> Source Code を選択、Python 3.5.4 の「Gzipped source tarball」を選択する。

https://www.python.org/ftp/python/3.5.4/Python-3.5.4.tgz

展開・ビルド:

\$ cd ; tar xvfz Downloads/Python-3.5.4.tgz

\$ cd Python-3.5.4

\$./configure --prefix=/usr/local |& tee configure.log

\$ make |& tee make.log



テストの実施準備:

接続先閉鎖によりエラーとなるテスト(test_xmlrpc_net)を除外する

\$ mkdir bkup; mv Lib/test/test_xmlrpc_net.py bkup/

テストの実施(しばらくかかる。実行環境に強く依存)

\$ make test |& tee make_test.log

→結果:

384 tests OK.

13 tests skipped:

test_dbm_gnu test_dbm_ndbm test_devpoll test_kqueue test_msilib

test_ossaudiodev test_startfile test_tix test_tk test_ttk_guionly

test_winreg test_winsound test_zipfile64

Tests result: SUCCESS

→ 以上が出力されればOK.

インストール:

システムバンドル版のPython 2.7 と共存する形でインストールを実施 (altinstall) \$ sudo make altinstall |& tee make_altinstall.log

← パスワードを聞かれた場合、ログインユーザアカウントのものを入力。

動作確認:

新しくターミナルを開いて、Python 3.5.4 を起動する

\$ python3.5

← Python 3.5.4 は/usr/local/bin/ 以下に python3.5 という名前で

インストールされている。

Python 3.5.4 が起動後、以下を実行する

>>> import os

>>> os.system('date')

-> 日時が表示され、上下キーの操作で履歴も表示されればOK.

2-C. モジュールのインストール

PyRAFに必須のモジュール (numpy, d2to1, stsci.distutils, stsci.tools) に加えて、 オプションのモジュール (nose, urwid, astropy, matplotlib) もインストールする。 インストール方法: pip を使用

- **\$ su -**
- # pip3.5 install numpy
- # pip3.5 install nose
- # pip3.5 install urwid
- # pip3.5 install astropy
- # pip3.5 install matplotlib
 - →依存性の関係で「cycler, kiwisolver, pyparsing, python-dateutil, pytz, six」 もインストールされる(注:本講習実施時では)。

pip3.5 install:				
複数のモジュールをまとめて				
指定することも可能				

インストール先:

→/usr/local/lib/python3.5/site-packages/以下

確認:

\$ pip3.5 list --format columns

→ インストール済みのモジュールの一覧が表示される。 この一覧にモジュール名があればOK.

2-D. PyRAFのインストール

PyRAFは ソースファイルをビルドしてインストールする。 (pip で インストールしたバイナリ版 ではグラフウインドウやパラメータウインドウ などが表示されないという問題があるため)

ソースファイルの入手:

- 本家サイトではソースを配布されなくなったため、PyPI (=Python Package Index) https://pypi.org/
- より入手する。「pyraf」で検索、「pyraf 2.1.14」を選択、左側のメニューより 「Download files」を選択、表示される「pyraf-2.1.14.tar.gz」を選択。

展開・ビルド:

- \$ cd ; tar xvfz Downloads/pyraf-2.1.14.tar.gz
- \$ cd pyraf-2.1.14/

\$ python3.5 setup.py build |& tee build.log

チェック・インストール:

\$ python3.5 setup.py check

\$ sudo /usr/local/bin/python3.5 setup.py install --prefix=/usr/local |& ¥

tee install.log

補足:「¥」:改行のエスケープ。

確認:

¥の直後に[enter]を入力する

新しくターミナルを開き、pyrafを実行する

\$ pyraf

→ IRAF 2.16.1 起動時のメッセージが表示され、その後に PyRAF や Python のバージョン番号の表示 (2.1.14, 3.5.4) があればOK.

線習1: 追加の動作確認: PyRAF上で ds9 を起動し、fits画像の表示や imexam で簡易測光や radial profileの表示、さらにタスク「imstat」 のパラメータウインドウを 表示する

練習1の回答例:

vocl> !ds9 &

vocl> display dev\$pix 1

vocl> imexam

→ fits画像上の星にポインタを合わせ、「a」や「r」を押す。 vocl> epar imstat

補足:

- Python 3系のPyRAFでは、タスク名のtab補完が機能しない。

(確認: PyRAF v2.1.14 on Python 3.4.7, 3.5.4, 3.6.4

PyRAF v2.1.13 on Python 3.5.4)

- Python 2.7系のPyRAFでは、上記問題が起きないことを確認済み。

(確認: PyRAF v2.1.14 on Python 2.7.14)

3. AstroCondaを利用したインストール

現在のPyRAFの本家サイトでは、最新版のダウンロード・インストールについて、 AstroCondaの説明ページ:

http://astroconda.readthedocs.io/en/latest/ へ誘導しており、Condaを利用した方法「のみ」を紹介している。

Conda:

Python用のパッケージ管理・仮想環境構築ツール(オープンソース) 本家サイト: https://conda.io/docs/ クロスプラットフォームで、Windows, Mac, Linux版が提供されている。

AstroConda:

フリーなCondaチャンネルの一つ。PyRAFと同じく、STScl(=Space Telescope Science Institute) によって維持されている。HST などのデータを処理・解析する ために必要なソフトやツールなどを提供している。

3. AstroCondaを利用したインストール

AstroCondaを利用したインストール手順は、以下の通り:

3-A: Condaのインストール

3-B: Condaの設定: AstroCondaチャンネルの登録

3-C: IRAF, PyRAF, ds9 のインストール

3-D: PATHの設定

この方法では、IRAF, x11iraf, STSDAS/TABLES, PyRAF, 関連Pythonモジュールも まとめてインストールされる。

ただし、インストールされる IRAF は 2.16 32bit版 のため、32bit用の各種ライブラリ が必要。以下、インストール手順(「¥」は改行のエスケープ):

\$ su -

yum -y install glibc.i686 zlib.i686 ncurses-libs.i686 bzip2-libs.i686 ¥ uuid.i686 libxcb.i686

3-A: Condaのインストール

Condaの導入方法:

2つのdistribution(Miniconda/Anaconda)があり、それぞれに Python 2.7系

(Miniconda2/Anaconda2)とPython 3.x系 (Miniconda3/Anaconda3)がある。

Miniconda: 必要最小限のConda 管理環境を提供 Anaconda: 完全なConda 管理環境 + 数百の有用なツールや ライブラリをデフォルトで提供

→本講習では、軽量な Python 3系の Miniconda3 を使用する。

Miniconda3 の入手:

本家サイトのdownloadページ

URL: https://conda.io/miniconda.html

より、Python 3.6, Linux, 64bit を選択し、「Miniconda3-latest-Linux-x86_64.sh」を入手。

3-A: Condaのインストール

root で ダウンロードしたファイルを bash で実行:

\$ su -

bash /home/user/Downloads/Miniconda3-latest-Linux-x86_64.sh

→ Enterを押すとライセンス条項が表示される。最後まで進んで、「yes」を入力。

→インストール先を変更: [/usr/local/miniconda3」を入力。

(インストール先は変更可。変更した場合は、これ以降の設定箇所もそれに合わせて変更) →/root/.bashrcファイルの編集: yes

確認:

source ~/.bashrc

which conda

→「/usr/local/miniconda3/bin/conda」と表示されればOK.

3-B: Condaの設定 3-C: IRAF/PyRAF/ds9 のインストール

3-B: Condaの設定: AstroCondaチャンネルの登録

conda config --add channels http://ssb.stsci.edu/astroconda

3-C: IRAF/PyRAF/ds9 のインストール (環境名は変更可。本講習では「iraf36」とする) # conda create -n iraf36 python=3.6 iraf-all pyraf-all ds9

確認

インストールした環境の有効化(アクティベート)

source activate iraf36

which cl; which pyraf; which xgterm; which ds9

→「/usr/local/miniconda3/envs/iraf36/bin/cl」などと表示されればOK. インストールした環境の無効化(ディアクティベート)

source deactivate

3-D: PATHの設定

インストールした環境を一般ユーザが利用できるように、PATHの設定を行う。 /etc/profile.d/以下に/usr/local/miniconda3/binのPATHへの追加を書いた ファイルを置く (この設定方法の場合、一般ユーザによるPATHの設定は不要)

echo 'export PATH=/usr/local/miniconda3/bin:\${PATH}' ¥

> /etc/profile.d/miniconda3.sh

確認:

cat /etc/profile.d/miniconda3.sh

3-E: 一般ユーザ環境での動作確認

root環境の終了

exit

環境設定の反映 & 一般ユーザ(user)環境での有効化

\$ source ~/.bashrc ; source activate iraf36

動作確認1 (IRAF 2.16 の起動と画像表示、imexamの実行・グラフの表示)

\$ mkdir -p ~/conda/iraf ; cd ~/conda/iraf

\$ echo 'xgterm' | mkiraf

\$ xgterm -sb -e cl &

→ IRAF 2.16 と表示されることを確認。

ecl> !ds9 &

ecl> displ dev\$pix 1

ecl> imexam

→ 星にポインタを合わせて、a, r, s, e などを押す。

動作確認2 (PyRAFの起動と、起動後は動作確認1と同じこと) \$ pyraf

→ PyRAF 2.1.14, Python 3.6.5 と表示されることを確認。

- -> !ds9 &
- --> displ dev\$pix 1
- -> imexam
 - → 星にポインタを合わせて、a, r, s, e などを押す。

iraf36環境の無効化

\$ source deactivate

3-F: 補足1

1: Python 2.7 環境のインストール方法:

今回 AstroCondaでインストールした PyRAF は Python 3.6 系 をベースに しているが、AstroCondaの本家サイトのFAQ https://astroconda.readthedocs.io/en/latest/faq.html では、Python 2.7系の使用を推奨している。 (「STSDASのPythonコードが Python 2.7 とそれ以前のバージョンを特に ターゲットにしているため」とのこと)

Python 2.7 環境をインストールする場合は、本テキストと以下の2点が 異なる:

- 3-A: Miniconda2/Anaconda2 をインストール
- 3-C: # conda create -n iraf27 python=2.7 iraf-all pyraf-all ds9

3-F: 補足2

2: IRAF 32bit版がインストールされる理由:

本家サイトのFAQによれば、「多くのタスクで64bit版バイナリを用意するには、 ソースコードの大幅な変更が必要だったため」とのこと。

3: 従来のインストールとの違い:

	従来の方法	AstroConda	備考
IRAF	2.16.1 (32/64bit)	2.16 32bit	
STSDAS/TABLES	3.17	3.18.3	違い: aXe (※1)のバグ修正など
Pythonモジュール	easy_install	conda	
の導入・更新・削	除 /pip		

※1: aXe: スリットレス分光データの整約・解析・可視化・シミュレーション用ソフト